

関係企業等へのヒアリング調査結果

1. 実施概要

(1) 目的

まちづくりについて具体的な検討に入る前に、沿線に立地する企業や学校等の意向を把握することが重要と考えた。また、高岳引込線を活用した新交通システムの導入については、その費用や採算性だけを考えるのではなく、沿線地区にとどまらない小山市全体への波及効果も視野に入れて、様々な視点からまちづくりを考えていく必要があるため、下記のとおり産・官・学等の関係者にヒアリングを実施した。

(2) 調査内容

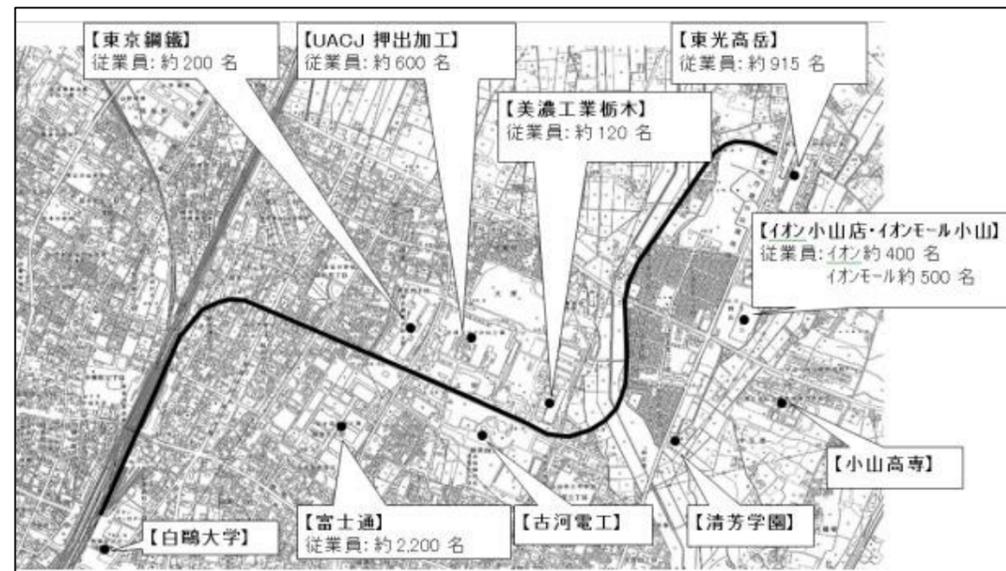
① 企業等の概要

② 沿線のまちづくりに関連する事項

- ・ 沿線の土地利用の状況（低未利用地等）
- ・ 社会貢献・地域貢献の取り組み状況
- ・ 電力利用の状況（省エネや再生可能エネルギーに関する取り組み状況）
- ・ 新交通システムや沿線まちづくりへの期待や意見

(3) 調査対象

産	工場	株式会社 UACJ 押出加工
		東京鋼鐵株式会社
		富士通株式会社
		株式会社東光高岳
		美濃工業栃木株式会社
商業施設	イオン（イオン小山店、イオンモール小山）	
学	学校	小山工業高等専門学校
		白鷗大学
		清芳学園（保育園・幼稚園）
官	小山市	福祉課、健康増進課、高齢生きがい課、子育て・家庭支援課
その他	土地所有者	古河電気工業株式会社
	デベロッパー	A社、B社、C社、D社
	鉄道会社	a社、b社



2. 実施結果

ヒアリングの調査の結果を調査対象別に整理した。

産	工場	暮らしを支える製品や飛行機等の部材など、多彩な技術を駆使した高品質の製品を製造し、国内はもとより海外にも出荷している。
		工場見学は見学ルートを設定し、近隣の小・中・高の授業向け等に依頼があれば実施している。電炉を使用している工場では、雷のような音がするので工場見学になじみにくいところもある。
		社内で省エネ部会を設置しており、地道な節電対策を検討・実施している。
		UACJ 所有の緑地部は、北側住宅地の緩衝帯となっているため、現在、利用・開発する計画はない。近隣に与える騒音に特に気を配っている。
		工業系の大学が沿線にあれば、地元雇用につながる。
		沿線に商業施設や病院があるといい。
		従業員の車通勤や製品出荷のトラックの横断に支障がないように留意してほしい。
		イベント時(お祭りやイルミネーション等)の工場公開や、工場周辺の清掃など様々な地域貢献活動を行なっている。
		引込線までの距離は住んでいる地域によって平等でないので、みんなが使える施設を作って欲しい。
		事業の内容に対して検討の時間が短すぎると感じる。遠回りをしてもよいものをつくってほしい。
産	商業施設	市とタイアップした高齢者家族や子育て世代が気軽に集えるコミュニティ施設「みんなのひろば」を設置。認知症を患った人やその家族などが交流するほか、地域への情報提供の場となっている。少しずつ利用者が増えてきている。
		小山市と結城市で文化的・芸術的活動をしているグループ・団体に限り、催事場スペースを無料で貸し出している。
		客のターゲットを30～50代としているため、ティーンズ世代が少ない。
		今後は、ショッピング目的だけでなく、色々な人が色々な目的で来てもらえるコミュニティセンターとしての役割も必要だと感じている。
		店舗に眼科と歯科は入っているが、内科は年間客数が多くないと入らない。
		月に1, 2回程度「モールウォーキング」を実施。公共交通に乗ってきてお店の中を歩くのもいい。
		クールシェアとして、夏の暑い日に公共交通を利用してお店に来た人に割引や特典があるという考えはいい。
引込線からお店までは距離があるので、ルートを追加するのはどうか。		
学	白鷗大	東キャンパスの隣に新キャンパスを設け、本部と経営学部を移設予定。駅に面した3階に市民講座を行なう会議室、1階に食堂を設け、一般市民に開放する。現東キャンパスも市民に開くことを意識してホールが入っている。
		市各課や商工会議所と多数の連携事業を行なっている。地元企業との交流はあまりないが、インターンや実習をしている。
		新交通ができれば、高齢化する小山東ニュータウンがよくなるのではないかと。また、沿線に住宅ができると新交通の需要が高まるのではないかと。
学	小山高	障がい者の雇用について、公共交通が充実している利便性の高いまちなかには必要な施設が立地していない。

		<ul style="list-style-type: none"> カフェやロブレの空きスペースで高校生が勉強している。高校生・大学生の居場所づくりも必要である。 新交通のイベントに合わせてオープンキャンパスをする等、ソフトの企画連携が重要である。 		
	清芳学園	<ul style="list-style-type: none"> 当園では子育て支援センターを設置。親と子どもが10人くらい集まって一緒に遊ぶ。その間、親が先生に相談ごとをしたり、子ども同士・親同士が友達になって交流できる場となっている。 子どもと二人きりでいる時間が長い親が多く、ストレスがたまりやすい。子育てに疲れた人がほっとできる場所が必要ではないか。 		
官	高齢生きがい課	<ul style="list-style-type: none"> いきいきふれあいセンター（城北集会所、勤労青少年ホーム）では、高齢者が元気な生活を継続するために、趣味やレクリエーション、学習を通して仲間と交流を行うことで、閉じこもりの予防に取り組んでいる。 一般の人が高齢者宅の生活支援（掃除、買い物等）をできる場をつくることを進めている。将来的には雇用も参入させていきたいと考えている。 沿線には高齢者施設や診療所がいくつか立地している。介護保険施設は、介護保険計画に基づいて整備をしているが、今後、まちづくり計画と整合性を図って進めていくことも考えられる。 新たな施設をつくるだけでなく、いくつか小さなスペース（ボランティアによる花植えなど）を整備するのはどうか。 		
	健康増進課	<ul style="list-style-type: none"> 開運おやま健康マイレージ事業をスタート。ウォーキング等を実施してポイントをためると特典等が得られる。沿線地域でもゲーム感覚でポイントを貯めることができると面白い。 高齢者だけでなく、子ども・子育て世代にとっても魅力あるまちづくりが必要である。 		
	子育て・家庭支援課	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援総合センターの利用者は、ベビーカー利用が多いが、駐車場が広くない。 ロブレリニューアル基本計画に子どもの遊び場「キッズランドおやま（仮称）」の設置があるが、現在のロブレ駐車場は立体駐車場であり女性は敬遠しがち。イオンに駐車して、新交通に乗ってロブレまで行けるとよい。 足利市の同様の施設は人気があり待ち時間が長い。小山市では待ち時間を有効活用できるように、予約システムの導入が要望されている。子どもは電車が好きなので、待ち時間に電車に乗って沿線地域で遊べるといい。 子どもが遊べる公共施設は、小山東出張所の子育てひろば、城北児童センターがある。 遊具が充実している広い公園は、家族で一日過ごせるためとてもにぎわっている。 新交通の一日乗り放題があれば移動も含めて一日中楽しめる。 テーマパークのように沿線をゾーン分け（工場見学・図書・カフェ・散歩ゾーンなど）すると日替わりで楽しめる。 		
		福祉	<ul style="list-style-type: none"> 沿線の工場見学ができるといい。 	
		土地所有者	<ul style="list-style-type: none"> 古河電工(株)所有の鉦滓未処理の土地は、今年1月から太陽光発電の工事を着工。ただし、20年間の定期借地であり、恒久的な土地利用ではない。処理済みの4万m²の低未利用地は賃貸を考えている。 沿線には、公共施設を設置できるとよいのでは。 	
		その他	デイベロッパ	<ul style="list-style-type: none"> 【A社】 住むところと働くところが重要であり、その間を交通でつなげるべき。 小山市はまだ働く場所が少ない。働く場所をつくることはそこで働く人がそこに住むことにつながる。 引込線の末端に東京や他県から企業を誘致すべき。 【B社】 大塚・中久喜土地区画整理事業構想に合わせて、P&R施設や鉄道公園等を整備してはどうか。

鉄道会社	<ul style="list-style-type: none"> 残っている引込線自体に希少価値があり、“現役の産業遺産”といえるのではないか。 JRの様々な車両を走らせる試乗イベント等の観光的利活用を検討してはどうか。 ヨットハーバーのように市民が所有する車両を保管するクラブハウスのような施設があるとよい。 	
	【C社】	<ul style="list-style-type: none"> 開発可能な大きな土地がない場合、市街化区域のフリンジ部で土地区画整理等を行う方法が考えられる。行政と地元が一体となって取り組めば農振農用地でも可能。 新交通システム終点の土地利用が重要。例えば、新4号国道の沿道付近に、新たな工場を誘致して働く場をつくるのが考えられる。 コンビニとスーパーの中間規模の都市型スーパーの出店場所を探している商業事業者がいる。意向次第だが、沿線への事業展開もあるのではないかと。 農作物の直売所を備えた道の駅や、農業工場と農業体験の拠点をつくるアイデアも考えられる。 子どもとお年寄りが集まり交流できる拠点をつくる案も考えられる。 東ニュータウンの活性化は、自治会だけの取り組みでは限界がある。建物のリフォームや空き家の紹介、転入希望者の受入等のコーディネイト役が将来必要になってくる。 小山市内にある資源を探して、沿線で活用・展開することも考えられる。 小山市がまちづくりの構想を打ち出せば民間開発も参入しやすくなる。
	【D社】	<ul style="list-style-type: none"> マンション等の高い投資効率で回収するビジネスモデルとしては、現在は都心にマーケットがあり、短期に考えられる新たな事業としては、小山駅直近の開発ぐらいしかない。 鉄軌道系の沿線としては、往復単線の沿線より環状線の方が条件としては優位。また、往復路線としては端末の地区に商業施設などの集客施設がないことも不利。 小山市内には既に複数の商業施設もあり、この地区での展開は難しそう。 JRの東西で分断されている印象が強い。中心部が駅を中心とした円内で集積したポテンシャルが全体で活かしていないのではないかと。 高齢者対策のみでなく、若い世代や子育てへの取り組みが将来性がある。また、大学や企業との連携は非常に重要。 まちづくりをするという対外的な発信(フラッグシップ)が行政からあると、事業者は動く。
	【a社】	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりのエリアが小さい。工業団地まで延伸して企業を誘致すれば目的が少し見えてくる。 まちづくりからどんな交通が必要かを考えることはよい。
	【b社】	<ul style="list-style-type: none"> 沿線だけを考えるのではなく、引込線の末端（東光高岳から先）に工場等を誘致する考えは北側のまちの可能性が広がる。 調整区域が中心部から近いことを活かし、市街地の既存の公共施設を調整区域に移動して、空いた土地に住宅等を整備してはどうか。 市として農地の宅地化を位置づけるかでまちづくりが変わってくる。